
苦勞話、怒れる話、下らない話

北方宗一

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

苦勞話、怒れる話、下らない話

【Nコード】

N4068Z

【作者名】

北方宗一

【あらすじ】

私の過去を紹介しつつ政治・社会の論評をし、執筆中の小説に目を向けさせてみようという姑息な私の発想で生まれたエッセイとも論評とも設定資料集ともつかないモノ。
生暖かく見守ってください。

私のトラウマと小説「正義のために……」の因果関係

私にはトラウマがある。誰にでも何かトラウマがあるだろう。

自分は教師、輪ゴム、馬面である。この三つに中学時代こっぴどくこくやられた。おかげで精神病を患い、対人不信に陥り発狂しかけたこともある……いやしたんだっけ。たまにフラッシュバックするのだが、そのたび自分が不安だ。

実は紀伊幸太郎のキャラメイクはこの経験からのパラレルワールド的分岐でできている。

何とも情けないが幸太郎は「自分に反撃する勇気があったら」という発想からできている。悲しいかな、人のサガである。みんなもやるでしょう、RPGで自分の名前で世界救うの。まあ、苦手だから私はRPGはやらないけれども。

ただ、中学時代の地獄から見れば高校時代は天国だった。他の生徒が監獄という中、まだ地獄という無限の苦痛の空間にいるよりもましだという価値観はスターリンよりもヒトラーのほうがましと同じだろうが。おかげでほかの生徒よりも浮いてしまった。リア充からは程遠いがまだ最低限度の文化的生活は保障されていた。

人付き合いの苦手さをマシンガントークで封殺する。まあしょうがない。人と話したことがないのだから。

この中学の地獄体験は記憶のほとんどを失っている。邪気眼？ 厨二病？ けっこうけっこう。実際邪気眼ネタはいろいろあつて高校時代やったことがあつたが、意外と受けた。ちょうど邪気眼アニメをやっている時期だったからか。まあ、信号を微塵も認識できず車にひかれかけたり、テストの点数の数え間違いでひと悶着あつたりは覚えているものの、クラスメイトは名も顔もほとんど覚えていない。高校三年の帰り道に中学の同級生を自称する人物に会ったが、全く覚えていなかった。彼らは覚えていたのに。覚えていたのは恨んでいる人物と、初恋の相手のみ。

私のトラウマと小説「正義のために……」の因果関係（後書き）

下らない内容。御目汚し失礼いたしました。

前回とは打って変わって次期主力戦闘機の事（前書き）

今回は最近決まった次期主力戦闘機F Xのことについて。
エッセイというよりも政治論評に近いかな。

「正義のために……」とは今回は関係ありません。

前回とは打って変わって次期主力戦闘機の事

最近、やつとのことです自衛隊のF XがF 35に決定した。

一部では非難もあるが、正直なところ本命のない競馬の馬券みたいなものである。

本命としていたF 22航空支配戦闘機は日本の防諜能力の低さから禁輸をくらってしまい、おかげでこんな泥仕合になってしまった。

正直なところF 22のポテンシャルは異常である。世界最強と言われるだけあって新兵が乗っても他機種の古参兵に勝つといわれるほどのものだ。視界外から何の前触れもなくパンチが飛んでくる上に、視界にとらえても圧倒的なスピードの拳動に追いつかないという状況を想像すれば恐ろしさは伝わるだろうか。

ただこのハイポテンシャルで犠牲になったのは経済性である。とにかく高い。アメリカがF 15の完全置き換えをやめたというくらい高い。圧倒的予算額のアメリカ軍がこのざまなのだ。だから作ることになったのがF 35である。まあ、このことは当初から織り込み済みで、F 22運用開始のずっと前から計画されていたのだが。

この計画では世界最悪クラスの不細工戦闘機も開発されたが不採用となった。採用された機体がF 35である。

実はこのF 35はだいぶ無理な計画だった。様々な用途の戦闘機をひとつの規格で作るのは、一度アメリカがF 111アードバークで試して失敗している。空軍と海軍でいるモノいらぬモノが違うので、「帯に短し襷に長し^{たすき}」になってしまい、拳句の果てに中型爆撃機として才能を開花。戦闘機として生涯を全うしたのはオーストラリア軍の機体だけだった不運の機体です。

F 35計画はさらに広く、中心となるアメリカ空海海兵に以下出資者であるイギリス空海軍、イスラエル航空宇宙軍、イタリア空

海軍、オーストラリア空軍、オランダ軍、カナダ空軍、デンマーク空軍、トルコ空軍、ノルウェー空軍といった組織の要求にこたえないといけない。これだけの顧客のニーズにこたえることのできる製品を作れるのだろうか。いやどこかでぼろが出る。いや、もう出たのほづが正しい。

計画では空軍型で一番シンプルなA、小型空母に乗せるSTOVL(VTOL)のB、大型空母に乗せる最大型のCとなるがBが一番の鬼門で、構造が複雑すぎてどうしようもない。他の機体の値段を上げている。最悪の場合製造しないと言い出した。イタリア海軍はBに命を懸けているのですごいもめそうだ。

さて、実は今回のF Xでは最有力候補でありながら最も可能性の低い候補だったF 35であったが、その理由は上述の出資である。日本は参加しておらず、不参加国への販売は参加国販売のさらに後とされていて、日本が必要となり始める時期から大きくずれ込むと考えられたからだ。しかも日本の要求とは程遠く、完成品を買うだけだ。

しかしどうもF 35が高騰しそうな中、なりふり構わず高値で買ってくれそうな日本に目が向いたらしい。ライセンス生産させれば高性能機ならなんでも大丈夫な日本に、設計製造を受け持つロッキード・マーチンが譲歩しそうなのだ。譲歩したらしたで製造させるとうるさいイギリスが怒りそうだがそこはコストダウン戦略とか言っではぐらかすつもりだろう。

今回のF Xで見えた課題は防諜網の強化と決定的な情報不足、そして大本命不在時の対策の必要性であろう。あとは戦闘機の開発能力だろうか。

前回とは打って変わって次期主力戦闘機の事（後書き）

なんか書きたかったから書いた。
ふう、すっきりした。

絶対平和主義なんて糞くらえ（前書き）

大学生活を送るうえで重要な科目選択
そんなときに思い立った今回のテーマです

絶対平和主義なんて糞くらえ

さて、私は工学の単科大学に通っておりませんが、文系の長期テーマの科目をとる必要性が出てきました。これを私の通う大学では「副専門」と言います。この3/4年の経験で当たりたくない教員に目星はついたものの、いかんせんメンタル系のコースか、政治系のコースかで悩んでいます。

両方おもしろそうに感じていますが、単位の面でメンタルが優勢です。何せ政治系コースはこの手の話でありがちな「九条教」の布教活動になりそうだからです。私は基本的に政治的には保守派なのですが、相手がこれだと単位が最低値をとりかねない危険があるわけです。いやゝ困った困った。

「九条教」とは日本国憲法第九条の効力を盲目的に信じている人たちの総称です。その熱心な姿勢と第九条の内容から「宗教じみている」と言われるようになり、このような言葉ができたようです。

この「九条教」の「信者」の多くは団塊の世代と言われております。真偽のほどは知りませんが、逆算するとその世代が全学連などによる闘争を行っていたのとマッチします。若年層は比較的保守的な思想の人間が多いといわれてますから、今後減少するのではとか言われています。

私が日本国憲法第九条を嫌うのは、自分自身の経験によるものです。力を持たぬ者は暴力に屈服するしかない。これは中学の頃のいじめによって導き出されたものです。まあ暗に自分が非力だったって認めちゃってますけど。

まだ民間人には法律があるし、きっちりした報復システムもある。しかし国家間において法律は絶対的な存在ではない。国際法は何度も破られている。日ソ不可侵条約の結末を見たか。ということです。もう一つ導き出せたのが絶対平和主義は絶対不可能であるということです。同じ民族でここまで分かり合えないのに、言葉も風習も

違う異民族と完全に分かり合えるのかということです。一応、国際言語としてエスペラントなるものがありますが、本当にエスペラントは中立的かというと全くそうではないといえます。まずアルファベットを使っている点。これは非アルファベット圏の民族にとつて中立ではない。話者も極端に少ないうえに、第一、それで民族の根底まで理解はできないであろうと感じます。言語は民族を根底から支えるモノで、また民族が言語を補完すると私は考えています。一部の知識人によって練成された人工言語は、ホムンクルスの如く『試験管』の外に出れば死んでしまうでしょう。

さて言語と民族の関係性ですが、それを如実に表しているのがイスラームの民です。彼らはクルアーン（コーラン）を最高經典とするイスラームを信仰しています。クルアーンは基本的に翻訳禁止で、翻訳した物は効力を失います。その理由はクルアーンそのものが歌・詩として成立しているからだとされています。イスラームが成立したところ、アラブは遊牧民の住む地域だったそうです。遊牧民同士の争いは歌で勝敗を決めるほど歌が重要となっています。歌が美しく成立するためには原語でないといけない。外国人がファンサブで歌うアニメのオープニングに違和感を感じるのは、歌が歌われた言語で一番美しく聞けるからだといえます。それに翻訳で意味がずれる可能性もある。酔っぱらいのもつ意味が日本とヨーロッパで違うように、經典の内容までずれたら地域で差が出てしまいます。どつぶり經典の持つ意味を理解するためにイスラームの言葉を理解させ、イスラームの言葉で考えさせる。これがイスラームの基本方針のようです。

人は分かり合えるというなら無差別殺人や通り魔の犯人とまともな対話ができるでしょうか。「カツとしたから」「誰でもよかった」なんて言って人の命を殺める相手に対話が成り立つのでしょうか。外交はそれこそこんな相手とやり取りする気持ちでないといけないでしょう。特に日本は。日本の周辺国には、日本の常識の通用しない国ばかりが集まっています。

九条教には嫌気がさします。政治コースを選ぶかメンタルコースを選ぶかはまだわかりませんが、政治コースになったなら日本国憲法第十九条・二十一条・二十三条を盾にしていきたいと考えています。

絶対平和主義なんて糞くらえ（後書き）

なんだろうね。結構な割合でイスラームの話やね。
全くの素人なのに。付け焼刃の知識で……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4068z/>

苦勞話、怒れる話、下らない話

2011年12月28日22時53分発行